

有田市立病院だより

Vol. 18

平成28年1月号



◆有田市立病院の理念◆

良質な医療を行い、地域医療に貢献し、利用者から信頼される病院を目指す。

◆基本方針◆ ー理念を現実化させるための私達の姿勢ー

- 1 患者様の視点に立った医療を行います。
- 2 安全で確実な医療を重視しています。
- 3 医療サービスを重視し、患者様に十分な情報を提供します。
- 4 他施設との連携を密にし、効率的な医療を行います。
- 5 住民の皆様から喜んでいただくことに働きがいを感じます。

有田市立病院

〒649-0316 有田市宮崎町6番地

TEL.0737-82-2151 (代)

FAX.0737-82-5154

ホームページ: <http://www.aridahp.arida.wakayama.jp>

発行：有田市立病院 情報管理・広報委員会

当広報誌へのご意見・ご感想お待ちしております。

新春によせて

新年明けましておめでとうございます。
皆様には恙なく新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

さて新年を迎えて、まず現在の医療情勢についてお話ししたいと思います。皆様も新聞、テレビ等マスコミの報道で御存知かと思いますが、これからの医療の方向性を決めるにあたって、2025年問題がクローズアップされております。すなわちこれから10年後にあたる2025年に団塊の世代（昭和22年から24年に生まれた世代）といわれている人々が、後期高齢者（75歳以上）となり、日本は5人に1人が後期高齢者となる超高齢者社会を迎えます。

そこで政府は様々な施策を立てて地方にその対応を指示しています。地域包括ケアシステムの構築、訪問看護の充実、在宅医療の推進等々であります。すなわち住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける事が出来るように、医療から介護、予防医療、住まい、生活支援まで提供できる体制作りを進めています。

現在、当院では入院治療を行う一般病棟（急性期）に加え、地域包括ケア病棟、すなわち『急性期の治療は終わったが、自宅へ帰るには、もう少し体力を回復させて自立出来る様になってから移っていただく病棟』を併設しております。また機能の高い訪問看護ステーションとして、癌の末期状態や重症度の高い患者さんの在宅医療を24時間体制で実施しております。さらに最近では、自宅で患者さんの看護をされている御家族の体調改善・リフレッシュのため、短期間患者さんに入院していただいて、その間病院で診療を継続するという入院の仕方も可能です。

以上のように病院も社会情勢や地域のニーズに従って変化してきております。今後いかに皆様の御期待に応えられる病院となっていけるか、職員一同、頑張っていきますので、本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

平成28年元旦

病院長 おの 尾野 こういち 光市



和歌山県立医科大学 臨床教授就任

<プロフィール>

氏名：たにくち やすのり 谷口 泰徳

役職： 有田市立病院 副院長
和歌山手の外科研究所所長、足の外科センター長

コメント：

このたび和歌山県立医科大学の臨床教授に就任致しました。今まで以上に良質な医療を行い、住民の皆様へ、一層信頼、安心されるように日々頑張っていきたいと思います。



介護福祉士 新任職員紹介

高齢者の4人に1人は認知症、またはその予備軍といわれる現在、認知症に人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現に向けて、様々な取組がされています。

このような中、当院では看護体制を強化するため、介護福祉士を採用し、高齢者・認知症の患者様に対して「起きる看護」を目指して、安心安全な入院環境で治療が受けられるように取り組んでいきます。

そこで、今回は平成28年1月1日付けで採用されました介護福祉士の皆さんを紹介します。

氏名：榎本 奈緒子

コメント：

この度1月1日から介護福祉士として働かせて頂くことになりました。介護福祉士として、患者様のお役に立てる様、がんばっていききたいと思います。



氏名：榎本 圭一郎

コメント：

今回、市立病院で働かせて頂くことになり、自分の持っている介護福祉士としての力を地域の方に役立てられるように努めていきたいと思っています。



氏名：井関 孝彰

コメント：

この度1月より介護福祉士として採用になりました、井関孝彰です。日々学び、皆様のケアを大切に頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。



氏名：保田 めぐみ

コメント：

笑顔を忘れず、責任を持って取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願い致します。



氏名：川乗 美穂

コメント：

1月より市立病院で働かせていただくことになりました。病院では患者様に寄り添い、信頼される介護士として頑張っていきます。よろしくお願い致します。



新しい機器を導入します！

【超音波診断装置】（平成 28 年 1 月導入予定）

現在、主に心臓超音波検査ならびに血管超音波検査に使用している機器を更新します。今回の更新では、これまでの心臓ならびに血管に加え、腹部超音波検査にも使用できるようになります。これにより、当院で肝臓などの腹部臓器の検査に使用できる機器は合計 2 台となり、患者さんの待ち時間短縮につながられます。当機器にはエラストグラフィという臓器の硬さを測定する機能もあり、疾患によっては肝臓の精査にも使用できます。また、心臓領域でも、3D 画像抽出により実際の臓器に近い形で確認可能となり、より精度の高い検査が可能となります。



【子宮鏡】（平成 27 年 12 月導入）

『子宮鏡』は膣を経由して直視下に子宮腔内を観察、診断する内視鏡です。子宮体がんの早期診断と治療に欠かせない内視鏡です。また、良性の子宮内膜ポリープ・子宮粘膜下筋腫・子宮奇形などや、これらの疾患に伴う不妊症・不育症・過多月経などの月経異常の診断治療にも有効です。

産婦人科の常勤医師着任により、以前にも多数実施していました子宮鏡下手術を再開します。



潜在看護師の復職を応援します！

～復職したい・でも不安・・・大丈夫！あなたのやる気を応援します！～

と、呼びかけて当院では第 1 回潜在看護師復職支援研修を行いました。

12 月 5 日（土）、主任看護師数名を講師として短時間プログラムで研修を開催しました。個別の対応ができるように少人数で行いました。

厚生労働省を始め日本看護協会・和歌山県看護協会では、高齢化社会を迎えるにあたり、全国に 55 万人以上いるといわれている潜在看護師の皆さんの復職に大きな期待を寄せて、対策を始めています。



結婚・妊娠・育児・介護など働いていない理由は様々ですが、ブランクによる不安を少しでも解消し、復職へ踏み出すお手伝いできればと企画しました。今回の研修は当院への就職が条件ではありません。有田保健医療圏の地域医療を支える病院として、潜在看護師の皆さんを応援します。

研修会は継続して行います。予定は随時ホームページに掲載していきますので、お気軽にご参加ください。



地域包括ケア病棟をご存じですか？

【地域包括ケア病棟って？】？



当院では、平成26年10月から東3階病棟を地域包括ケア病棟として運用を開始しています。

主に、急性期医療（東5階・4階病棟）で、ある程度病状が安定して自宅や介護施設へ退院するための準備を行う患者さんが入院されています。

また、在宅療養中に何らかの不都合が生じ一時的に生活継続が困難になった場合、在宅療養を支える目的での受け入れもしています。手術をしない骨折、短期間入院の手術・検査の方が入院されることもあります。

入院期間は、状態に応じ調整します。



【地域包括ケア病棟での取り組み】



日中は普段着で

日中は寝巻から運動しやすい普段着に着替えて過ごしています。『着替える』ということは、気分を変える、生活にメリハリをつけるという意味合いもあります。また当然、着替えにはしっかり座ったり立ち上がったたり、全身の動作が必要とされ、自然と活動性が向上します。

デイルームで食事

日当たりの良いデイルームで、音楽を聴きながら患者様が集まって一緒に食事をします。音楽のリクエスト等にも対応しています。

日常生活動作の拡大

なるべく離床を促し、家庭での生活に近づけるよう援助しています。

ベッドサイドリハビリ

寝たきりの患者さんには、関節が固まらないようにマッサージや手足の曲げ伸ばしを行います。リハビリ講習を受けた看護師が、患者さんのベッドでリハビリを行います。

退院調整

主治医・看護師・リハビリテーションスタッフ・社会福祉士・介護福祉士等が協力し、患者さんを支援します。

地域の関係各所（ケアマネージャー・施設担当者・訪問看護など）と連携し、安心して退院後の生活に移行できるよう支援します。



有田市立病院の 2015年



～ 1年を振り返って ～

10月 健康フェスティバル開催

有田市立病院で初めての試み『健康フェスティバル』を開催。

なりきり看護師体験やエコー体験、食育に関する講演会や医療相談コーナーなどの催しを数多く実施。健康・医療・病院に、より親しみを持てる場に。あわせてピンクリボン運動の一環として、病院をピンクにライトアップ。



7月 市民公開講座開催

坂口医師（当院 診療部長・外科医長）による『切らずに治す痔の治療』、吉益医師（当院 皮膚科医長）による『皮膚病の早期発見・早期治療』の講座を開催。



10月 市民公開講座開催

堂西医師（当院 診療技術部長・外科医長）による『脱腸ってなに？』、白井医師（当院 内科医長）による『胃がんから生命を守るために』の講座を開催。



7月 産婦人科常勤体制再開

生駒医師が着任。
産婦人科の常勤医による診察を再開。



5月 専門外来を開始

谷口医師（当院 副院長）による、『和歌山手の外科研究所』『足の外科センター』を開設。手足を専門とした外来を開始。



4月 新任医師着任

内科常勤医3名に

谷口医師、白井医師、中井医師、辻本医師、野澤医師が着任。内科は応援医も加えて、常勤医3名体制に。

3月 市民公開講座開催

細医師（毎週金曜 内科2診）による『肺の病気について』の講座を開催。

